

## 集落分類の実態解明

### 1. 試験のねらい

本県では、集落を単位とした担い手の確保について、農協を中心に関係機関一体となって推進されており、地域に合った担い手のあり方を検討支援するシステムへの要望は極めて大きい。

そこで、センサスの集落毎に提供される農家調査一覧の項目から、労働力・土地・主要機械等を指標として、担い手の特徴を基準とした集落の分類法（センサス集落カード整理分析マッピングシステムの開発：稲作のある農業集落を稲作規模と単一複合経営類型の組み合わせによる6類型）を基に、集落における担い手等の実態調査を行い、集落分類方法と集落単位（範囲）の確認を行う。

### 2. 試験方法

(1) 調査対象：営農集団が存在する任意の旧市町村：宇都宮市B地区

(2) 調査項目、調査方法

農家毎の経営耕地面積・栽培面積：2000・1995・1990・1980センサス集落カード分析および聞き取り調査結果等を整理分析した。

営農集団等の活動状況：聞き取り調査結果等を整理分析した。

### 3. 試験結果および考察

(1) センサス集落分類結果：地区（旧市町村）は、農業地域類型第1分類の平地農業地域、第2分類の水田型である。地区には25集落が存在し（図）、全ての集落が農業集落であり、うち8集落が主たる水田担い手無しである。本地区は米麦・園芸・畜産の共存地域と分類した。

(2) 地区の概況：北西部から南西部にかけて都市化が進む一方、北東部と南東部については水田が広がっている。耕地面積は田580.5ha、畑102.2ha、総農家数は475戸である。主たる作物は水稻452.2haで稲作単一経営が352戸と総農家の74.1%を占め、主なその他のものとしては、いちご・トマトを中心とした施設野菜単一経営が29戸ある。本地区の転作等作物等については表-1のとおりである。また、地区内には1つの営農集団が存在する。

(3) 営農集団の状況：麦大豆関連の機械の共同所有と麦の防除の共同作業を行っている（表-2）。借地は構成員個人が行い、受託作業も個別に実施している。これら面積のセンサス等統計には、個人の面積として反映されている。この営農集団で地区の98.0%の麦を栽培し、平均8ha、最大16haの水稻作付を行い地域の主要な担い手になっている。構成員が地区全体に分散し、担当エリアを区分し効率的に土地利用を行っていることが規模拡大ができる要因になっている。

(4) 地区外の出入り作：地区内の大規模経営と営農集団が地区外の水田を受託・借地している事例は、営農集団の構成員が血縁者の農地等を受託しているが小面積である。また、他地区の大規模経営と営農集団が地区内の水田を受託・借地している事例についても小面積であった。

(5) 地区内の集落間出入り作：営農集団の構成員は集落を越えて在住しており、借地または受託の範囲は当該集落を越えて地区全域で行われている。このことから、地区内の水田作については、限られた担い手に集約されてきた結果、集落間では出入り作という概念ではない。

### 4. 成果の要約

地区全体としてはセンサスによる集落分類の結果と実態調査の結果が概ね一致した。一部集落単位では合致しない集落が存在したのは、地区内集落間の出入り作が多くあったことによる。これは水田作の担い手が規模拡大により収益を確保したり、一方で担い手自体が少ないために地域で集落を越えて委託や貸借が行われることが主な要因である。

以上のことから、水田作の担い手については、旧市町村を単位とした地区を基本として考えることが必要である。

（担当者 企画経営室 樋山宏幸 齊藤総幸） 現 農政部農政課

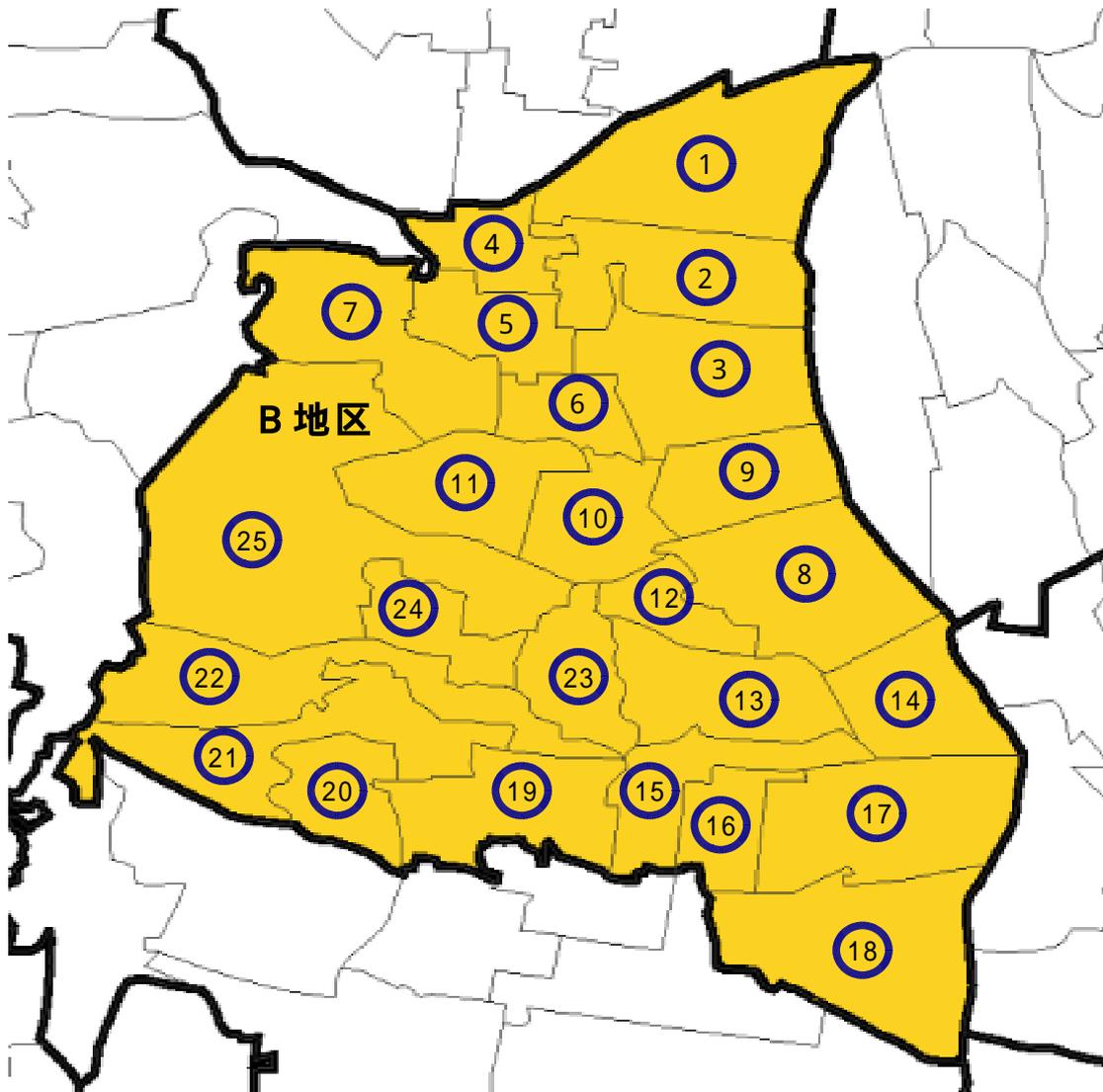


図 B地区の集落図

表 - 1 地区の転作等作物等作付面積 (単位:a)

飼料作物	350
麦類	3,224
雑穀	79
豆類	343
花き・種苗類	244
地力増進作物	433
水田預託	2,158
自己保全管理	0
調整水田	1,605
土地改良通年施行	0
果樹	185
施設園芸用施設等	0
景観形成作物	88
トマト	920
いちご	1,500
ぎゅうり	26
しいたけ	75
ねぎ	66
たまねぎ	770
その他野菜等	1,108

表 - 2 営農集団の所有機械と集落別構成員数

M営農集団		
共同所有機械	ブームスプレー	1 台
	施肥・播種機	2 台
	大豆コンバイン	1 台
集落別構成員	集落番号 6	1 人
	集落番号11	1 人
	集落番号20	1 人
	集落番号21	1 人
	集落番号23	1 人
合計		5 人

集落番号は図-1のとおり